

③エリアの回遊性創出とスマート化への検証

ii) 周辺ネットワーク特性の分析

○ 施設立地状況の分析

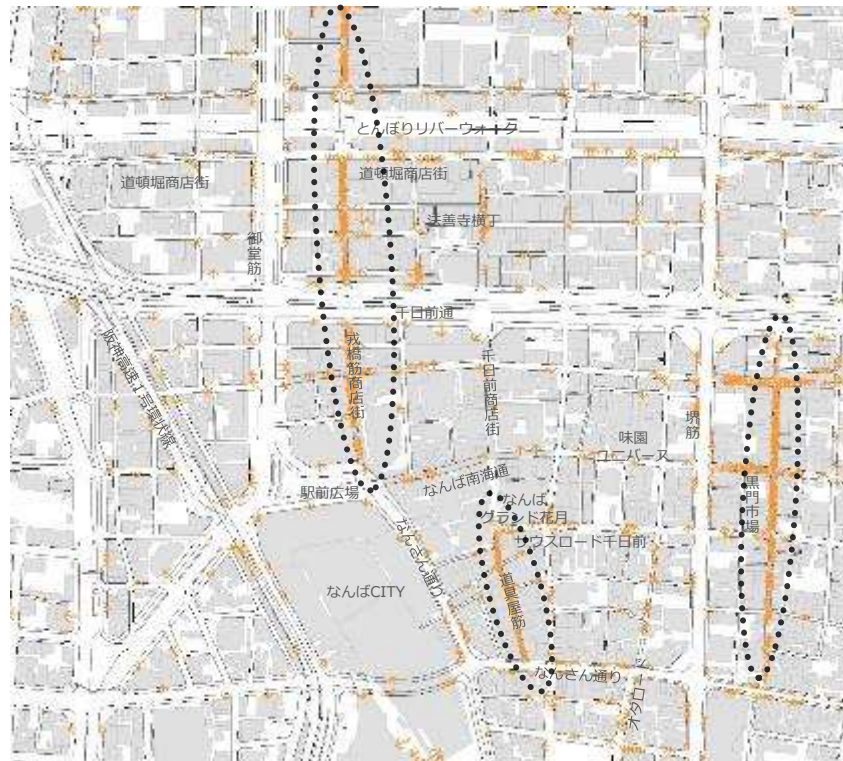
- ・物販店舗は「線」的に、飲食店舗は「面」的に分布していることがわかる
- ・商店街などで多くの店舗が連なっている一方で、連続性が途切れるギャップ（隙間）も見られる
- ・御堂筋沿いは、規模の大きい建物が多いこともあり、店舗出入口の連続性は比較的低い

▼1F 建物出入口の分布

※本業務の検討期間中において、沿道から確認できる建物出入口をプロットし、その所見から推測できる用途をデータ化したもの。 ※一部、未記入（確認中）の箇所あり

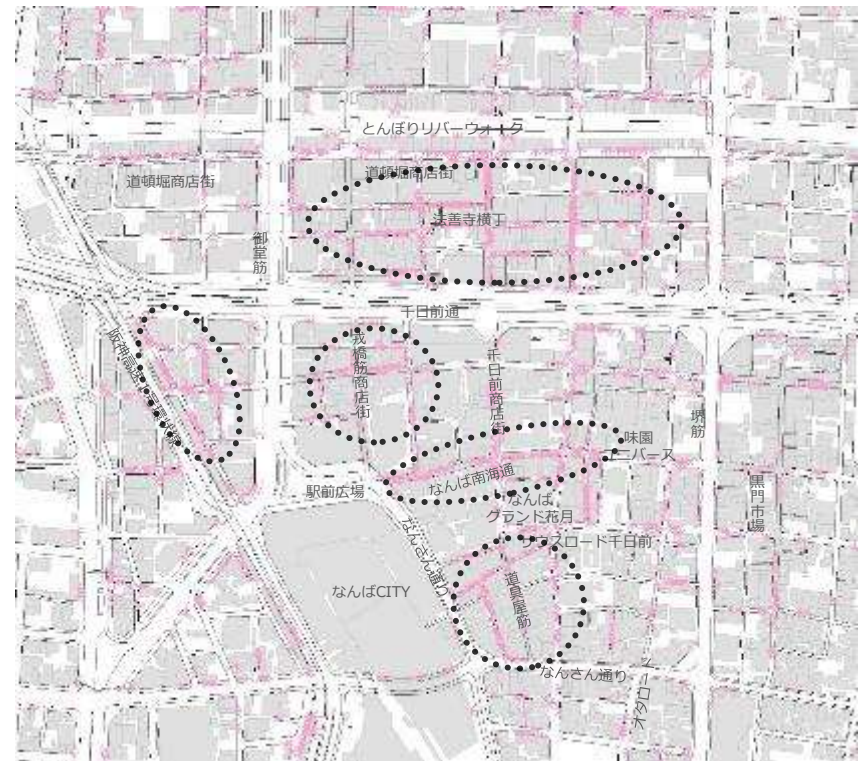
<物販系店舗>

→ 物販系店舗出入口



<飲食系店舗>

→ 飲食系店舗出入口



③エリアの回遊性創出とスマート化への検証

★今後の検討イメージ（予定）

- ・それぞれの調査分析結果、**データの相互関係を理解し、考察**することが大切
- ・**「回遊状況」をつくっている要因**を、歩行動線ネットワークや沿道の施設店舗の状況などから考察する【作業中】
- ・エリアの回遊性創出に向けた、**様々な戦略アイデアを検討**【作業中】

○人流データ等による回遊状況の把握

- ・回遊範囲の広がりがある
 - ゾーン（界隈）相互の関係の理解
 - 回遊の障壁となっている**要素・要因**の発見 など

○歩行動線ネットワークの分析

- ・使われにくい**経路**があるのでは？

○施設立地状況の分析

- ・沿道**店舗**の連続性が途切れているのでは？

○回遊性創出に向けた歩行者の滞留行動の把握

- ・歩行者の**滞留行動分布**がわかる
 - 「立ち」滞留が多い場所
 - 滞留行動が少ない場所 など

・新たな回遊性創出へ

・より効果的な、
滞留空間の配置

- ・ニーズに対応した滞留空間や座具の設え
- ・滞留空間と沿道店舗との関係改善 など

③エリアの回遊性創出とスマート化への検証

iii) AIカメラによる道路利用状況の把握

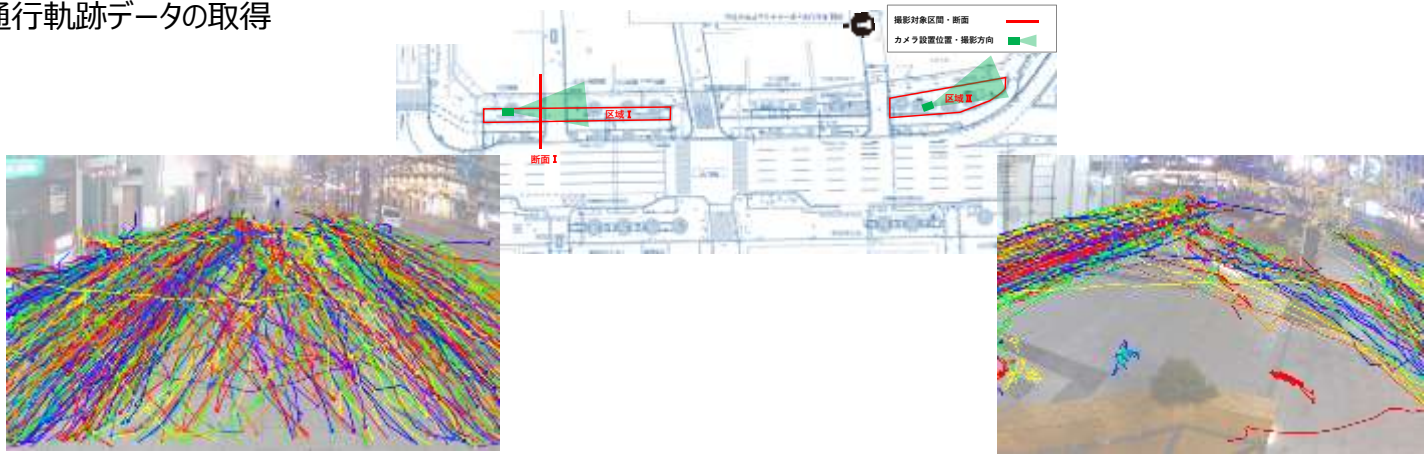
- ・電源付き照明から歩行者等の通行状態、交通量・滞在者数等の計測が可能
- ・交通量、滞在が多い曜日や時間帯、位置等の把握が可能
- ・ある程度、性別毎・年齢毎でのデータ化も可能（計測の結果はP 7・9 等）

A I カメラ設置

電源付き照明柱（新設）に
A I カメラを設置

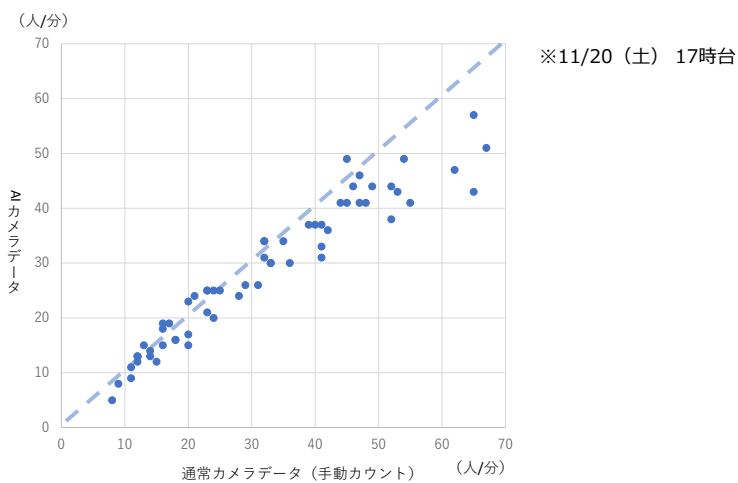


▼通行軌跡データの取得



▼AIカメラデータと手動カウントの比較（断面交通量）

▼リアルタイムの交通量等データ取得・確認（ダッシュボード）



③エリアの回遊性創出とスマート化への検証

まとめ

検証目的	各項目の結果		今後の方向性
	観点	結果	
・御堂筋・なんば駅前広場からエリアへと回遊を拡げていく方策を、AIカメラや人流データ等をもとに検証する	i) 人流データ等による回遊状況の把握	・なんば駅付近（千日前以南）の比較的狭い範囲での回遊が多く、 御堂筋も滞在・活動空間として機能 ・北側は比較的広い範囲の動きがある、 千日前通を超える南への回遊が少ない	⇒今後、それぞれの調査分析結果、データの相互関係を理解し、考察を実施 ・「回遊状況」をつくっている要因を、歩行動線ネットワークや沿道の施設店舗の状況などから考察 ・エリアの回遊性創出に向けた、様々な戦略アイデアを検討
	ii) ネットワーク特性の分析	・「立ち」の滞在が戎橋商店街など多くの箇所で確認されるが、 「座り」滞在は少ない ・ 御堂筋北区間では、楽しむ行動が比較的少ない ことがわかる ・ 南北の移動では戎橋商店街が利用されやすく 、御堂筋は南北に連続的に通行されにくい ・ 難波駅からは千日前以南のエリアまではつながりが強い が、それより北は遠く感じられる	
	iii) AIカメラによる道路利用状況の把握	・交通量、滞在が多い曜日や時間帯、位置等の把握が可能 ・性別毎・年齢毎のデータ化も概ね可能	